**図　画　工　作　科　学　習　指　導　案**

日　時令和4年4月26日（火）

　13：30～14：30

対　象　第５学年１組

　　　　　　　　　授業者　田村久仁子会　場　図画工作室

**１ 題材名** 　「春　はる　コレクション」

A表現(1)イ(2)イ,B鑑賞(1)ア,〔共通事項〕(1)ア,イ

**２ 題材の目標**

**（1）「知識及び技能」に関する目標**

・自分の感覚や行為を通して，「奥行き」「バランス」「色の鮮やかさ」を理解する。

・表現方法に応じて，水彩絵の具を適切に扱うとともに， 前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて工夫して表す。（知識・技能）

1. **「思考力・判断力・表現力」に関する目標**

　　・「奥行き」「バランス」「色の鮮やかさ」などを基に、自分のイメージをもちながら、「春」を主題に表したいことを見付け、形や色、材料などの特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表わすかについて考える。

・自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

**（３）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標**

・つくりだす喜びを味わい、主体的に春のイメージを表わす学習活動に取り組む。

**３ 評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知知識及び技能 | 思思考力・判断力・表現力 | 主学びに向かう人間性 |
| 1. 自分の感覚や行為を通して，「奥行き」「バランス」「色の鮮やかさ」を理解している。 2. 表現方法に応じて，水彩絵の具を適切に扱うとともに， 前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて工夫して表している。 | 1. 「奥行き」「バランス」「色の鮮やかさ」などを基に、自分のイメージをもちながら、「春」を主題に表したいことを見付け、形や色、材料などの特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表わすかについて考えている。 2. 自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。 | つくりだす喜びを味わい、主体的に春のイメージを表わす学習活動に取り組む。（表現） |

**４ 題材について**

1. **題材観**

例）本題材は、小学校学習指導要領(平成29年告示)

図画工作　「Ａ表現」(1) イ，(2) イ，「Ｂ鑑賞」(1) ア，〔共通事項〕(1) ア，(1) イを指導する。

「A表現」

（１）イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たこと，伝え合いたいことから，表したいことを見付けることや，形や色，材料 の特徴，構成の美しさなどの感じ，用途などを考えながら，どのように主題 を表すかについて考えること

（２）イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに，前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総 合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして， 表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと

「Ｂ鑑賞」

（1）ア　親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品，我が国や諸外国の親しみのある美術作品，生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深めること

　〔共通事項〕(1) ア，(1) イ

　　ア　自分の感覚や行為を通して，形や色などの造形的な特徴を理解すること。

イ　形や色などの造形的な特徴を基に，自分のイメージをもつこと。

を受けて設定した。

本題材は、この季節にしか感じられない「春のイメージ」を校庭に出て身体全体で感じたり、見付け

たものをスケッチしたりしながら今まで扱った材料や用具などを総合的に活用しながら、工夫して表す内容である。

**(2)児童観**

　　第５学年児童が季節のイメージを感じて表現する活動は二回目である。第４学年時には、校庭に出て、

　自分が気に入った「木」を見付けて描く「木々を見つめて」を行った。そこでは、見付けた木の気に入

った形や色を再現したり、誇張して描いたりなどの行為を通して、「形の感じ」「色の感じ」「それらの組

み合わせによる感じ」「色の明るさ」などを分かっていた。またそこでわかったことを基に自分のイメー

ジをもちながら背景の模様や色を考えていた。4学年時の経験をもとに、「春」という目には見えない季

節のイメージを作品表わすことにより、より子ども達の「形」「色」「イメージ」の造形感覚を養う。

　また、クラス替えを終えたばかりの5学年児童にとって、自分を表現する図画工作科の作品づくりを

新しい人間関係の中でのびのびと表すことをためらう児童もいる。そのため、描く画用紙は手のひらサ

イズとした。そうすることで、どの児童も表現することに比較的容易に取り組むことが出来る。題材の

7時間目には相互鑑賞の時間を設定する。お互いの「春のイメージ」から様々な造形的な特徴を見つけ出し、見方や考え方が広がり、深まることが出来るように作者名と作品名を伏せて時間をもつ。

1. **教材観**
   1. **描く紙の大きさ・材質**

第一次に使用する紙は、手の平に収まるくらいの大きさから、B5サイズくらいまでの大きさを様々

用意する。外でスケッチするときに描きやすいように、黄ボール紙に液体粘土を塗ったものを用紙した。また描くものの色によって表裏のどちらに描くかも選ぶことができる。また紙の形は、紙を破ることでいろいろな形を用紙した。共通事項（ア）にある「自分の感覚や行為を通して，形や色などの造形的な特徴を理解すること」を重点的に捉えられるよう、紙の形を選ぶことで児童が選んだ描くものの「形」をより意識できるようにした。

　第二次に使用する紙は、A6サイズの白画用紙を使用する。コンテパステルの粉が定着しやすく、描きやすく消しやすい材質の画用紙を選んだ。春のイメージの色を試しながら何枚も描くことが出来るような大きさとした。

　第三次には白段ボールを用意する。第一次、二次で描いた「コレクション」を様々自由にコラージュしたり、余白に描き加えられるように、強度のある材料で「白」とした。また、正方形、長方形のいくつかの大きさを用意することで、児童が自分の作品のイメージを構成しやすいものを選べるようにした。

* 1. **描画材**

第一次は水彩絵の具では混色や筆遣いなどを重点的に指導し、見つけた「春」のスケッチに取り組め

るようにする。第二次ではコンテパステルの「描く」「ぼかす」「消す」などの技法を用いながら「春」の形や色のイメージを表現する。第三次は、できた作品や色画用紙、お花紙などをコラージュする他に、「水彩絵の具」「パステル」も使いながら表現する。題材の指導計画の中で、段階的に描画材を扱うことにより、第三次で二つの描画材の特徴や違いなどを感じながら「表現に適した方法」を選ぶことが出来るようにした。

* 1. **コラージュ**

第一次、第２次で描いてきた「春のコレクション」を白段ボールにコラージュする。ここでは「構成の美しさの感じ」を重点的に指導する。形や色が響き合う配置、奥行きの感じ、色の組み合わせによる感じなどが、配置によって変わることを児童が行為を通して理解できるようにした。

**５** 題材の指導計画と評価計画 （５時間扱い）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 主な学習活動 | 評価の観点（評価方法） |
| １次  90分 | 校庭に出て「みつけた春」を水彩絵の具でスケッチする。  　〇どこから春を感じるか  　〇どの紙にどのように描くか  　〇筆遣いや色の重ね方 | 知－①②  思－①（製作の様子・作品） |
| ２次  90分  次 | コンテパステルをつかって「春」のイメージを形と色で描こう。  　〇パステルの特徴と使い方（描く・塗る・消す）  　〇パステルの特徴を生かして描こう。 | 知－①②  思－①（製作の様子・作品） |
| ３次本時  90分  次 | 描いた「春コレクション」を形や色が互いに響き合う配置、奥行きの感じ、色の組み合わせなどを考えながらコラージュして、自分の「春のイメージ」を表わす。 | 知－①②  思－①  （製作の様子・作品） |
| ４次 | お互いが製作した作品の相互鑑賞をする。  90分 | 思－②  （発言・鑑賞カード） |

**６** 本　時 （全５時間中の第５時間目）

1. 本時の目標

「春のコレクション」を並べたり、重ねたり、描き加えたりして、自分の「春のイメージ」を表わそう。

(2) 展開（４５分授業）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ○学習活動　　・予想される児童の反応 | ◎指導上の留意点・配慮事項  ☆評価　知　思　主 |
| 導入  15分  展開  ２５分 | 〇前時までの振り返り  〇前時までに描いた「春」を並べてみる。  　・「春」って感じ  　・班の友達と比べてみると、また違った感じだ  ね。  もっと「○○な感じ」ようになるように、描いた「春」を並べたり、重ねたり、描き加えたりして工夫してつくろう。  〇並べ方・重ね方によって作品の「感じ」が変わることを理解する。  　・まとめておくと右側に空間が空いて広がりが  あるように感じる。  　・バラバラに置くとバランスがよく感じる。  一つ一つの「春」が目に入ってくる。  〇描き加えたり、他の材料を加えたりすることで  作品の印象が変わることを理解する。  ・画用紙を作品の下に置くと、より際立って見  える。  ・パステルで色を加えたら、より優しい「春」  の感じが強くなった。  　・小枝を周りに貼ることで春風で舞っているいるようにした。  　・なんとなくだけど、ここに茶色を置くと画面がしまってカッコいい感じになる。  　・◇さんの作品は画面のいろいろなところに置いた方が楽しい感じになるんじゃないかな。 | ◎前時までに描いた作品を改めて見直すことにより、自分が描いた「春」と友人の描いた「春」の多様性に気付かせるようにする。  ◎作品の構成の仕方が違う二つの作品を提示することにより配置によって作品のイメージが変わることが理解できるようにする。  ◎何人かの児童に実際に描き加えたり、加えたい材料をはってもらうことにより、学級全体に本時の学習活動の見通しをもたせる。  ◎机間指導をしながら児童が、「もっと○○な感じなるように」考えて配置をしているかを見とる。  ◎班の友人同士で作品の配置を見ることで、お互いの「もっと○○な感じ」に気付けるようにする。 |
|  |
| まとめ  ５分 | 〇振り返り  〇まとめ | ・次時を翌日に行うため、片づけはせずに作品は机上に置いたままにする。 |

**７** 学習の準備

　　児童　ハサミ　のり　水彩絵の具一式　クレパス

　　教師　見本作品　色画用紙（12色）お花紙（6色）小枝　小石　コルク

　　　　　白段ボール　四つ切

**８**板書計画及び場の設定

○板書計画

参考作品

春　はる

コレクション

　　　　　　　　　　　　　　　　　　学習活動の流れ

1. もっと「○○な感じ」になるように

並べ方・重ね方を考えよう。

1. 貼ったり、描き加えたりして自分の

表したい感じになるように工夫して

つくろう。

参考作品

めあて

見つけたり感じたりして描いた「春」を集めて、

時間

１４：１０分まで

〇場の設定　図画工作室

自然材

色画用紙

児童3人

児童3人

児童3人

お花紙

描画材

児童3人

児童3人

児童3人

児童3人

児童3人

児童3人

児童3人

TV

黒　　　板

入口